

総 題 「聖書をいかに解釈するか」

第12課 難しい箇所の扱い方

伊藤 裕史

1. 安息日午後

皆さんは聖書の中に分かりにくいものを読んだことはありますか。そんな時に皆さんはどうしていますか。読みとばしたり (分かりにくいところを読まない)、見ないふりをしたりしますか。生活の中ではそれもできます。しかし、聖書研究ではそうはいきません。そんな時に「どう取り組む (読む) といいか」が今週のテーマです。暗唱聖句にあるように「難しく理解しにくい箇所があって、無学な人や心の定まらない人は、それを聖書のほんの一部分と同様に曲解し、自分の滅びを招いています。」(Ⅱペト 3 : 16) ということにならないように学んでいきましょう。そして、分かりにくい場所があるからといって聖書からはなれることがないように注意しましょう。そのために、難しく感じるのはなぜか、それに対して私たちがどう取り組む (読む) ことが大切なかをいっしょに学んでいきましょう。

2. 日曜日：明らかな矛盾の理由として考えられること

聖書にはなぜ私たちにとって分かりにくいところがあるのでしょうか。理由のひとつは、私たちに原因があります。私たちは神様のことをすべて理解することができない者だからです。小学生が高校生の学んでいるものをすべて理解することができないように、今の私たちには神様の知恵のすべてを理解することはできないのです。その時、私たちはむずかしいとか、分かりにくいと思ってしまうのです。だからといって、高校生の学んでいることがまちがっているとは思わないでしょう。だから聖書の中にわからないところがあるからといって、聖書がまちがっていると思うことも、聖書を読むこともしてはいけません。でもある人たちは自分がわからないから、聖書は間違っていると言います。そしてすぐにほうり出してしまいます。それは聖書を、「人」が作ったものと考えているからです。そういう人はそこから先に進もうとせず、聖書からはなれてしまいます。そして、聖書を読むことなくまちがっているというのです。もちろん、聖書がつかえらる中でまちがいがあったり、日本語にするときにはまちがったりすることもあります。でも心配しないでください。そのような時は神様が正しい道へ導く方法を用意して下さっています。私は聖書の真理はパズルのようなものだと思っています。パズルのピースはかならずどこかはまる場所があります。自分の思い通りのところではまらないからといって捨ててしまえばパズルは完成しません。だから、決して聖書

の^{しんり}真理 (イエス・キリスト) を^す捨てたりしないでください。

3. 月曜日：難^{むずか}しい箇所^{かしょ}を正^{しょうじき}直^{ちゅうじく}に注意^{ちゅういぶ}深く^{あつか}扱う

問題^{もんだい}は、聖書^{せいしょ}の中^{なか}でわからないことが出てきた時^{とき}にどうするかです。ごまかしたり、にげたりしないで下^{くだ}さい。一番^{いちばん}大切^{たいせつ}なのは「自分^{じぶん}は、今^{いま}はわからない」ということを正^{しょうじき}直^{すなお} (素直) にみとめることです。神様^{かみさま}は私^{わたし}たちがわからないことをみとめたときに、次^{つぎ}の道^{みち}をそなえて下^{くだ}さるのです。

でも、このよう^{せいしょ}な (聖書^{せいしょ}を「今^{いま}はわからない」と思^{おも}っている) とき^{じぶん}にあなた^しが「自分^{じぶん}は知^しっているよ」という態^{たい}度^どをとったらどうなるでしょうか。神様^{かみさま}はあなた^{はたら}にたいして働^{はたら}きかけることができません。それだけでなく、あなた^しの知^しらないのに知^しっているといた^{いつわ}り (ニセ) のすがたを守るために、あなた^{まも}はもっとうそをつかなくてはな^なくなくなるでしょう。そうすると戻^{もど}ることが難^{むずか}しくなります。だから、ごまかしたりしないでください。

もしわからないことを正^{しょうじき}直^{すなお} (素直) にみとめるならば、神様^{かみさま}がすぐにではないかもしれませんが、真^{しん}実^{じつ} (イエス・キリスト) を知^しるよろこびを私^{わたし}たちに用意^{ようい}して下^{くだ}さるのです。皆^{みな}さんもこれ^{いま}まで (今^{いま}まで) とけなかつたむずかし^{もんだい}い問題^{もんだい}がとけたときに「やったー!」と喜^{よろこ}んだことがあるでしょう。皆^{みな}さんは聖書^{せいしょ}をとおしてこのことが体験^{たいけん}できます。その時^{とき}、私^{わたし}たちはこれまで知^しらなかつた新^{あた}しい神様^{かみさま}のすがたを見^みることができるのです。こちら^{たいけん}を体験^{たいけん}していきましょう。

4. 火曜日：難^{むずか}しい箇所^{かしょ}を謙遜^{けんそん}に扱^{あつか}う

神様^{かみさま}を知^しる喜^{よろこ}びを体験^{たいけん}するためには、まず自分^{じぶん}が本当^{ほんとう}はどんな姿^{すがた}なのかを知^しる必要^{ひつよう}があります。なぜなら私^{わたし}たちは自分^{じぶん}の姿^{すがた}をまちがって考^{かんが}えているからです。私^{わたし}たちは自分^{じぶん}が世界^{せかい}の中^{ちゅうしん}にいて、自分^{じぶん}の考^{かんが}えが一番^{いちばん}正^{ただ}しいと思^{おも}っています。この自分^{じぶん}が正^{ただ}しいという思^{おも}いが、聖書^{せいしょ}を理^り解^{かい}する大^{おお}きな壁^{かべ}になっているのです。

本当^{ほんとう}はどうでしょうか。私^{わたし}たちは世界^{せかい}の中^{ちゅうしん}にいませんし、私^{わたし}たちの考^{かんが}えは正^{ただ}しくもありません。私^{わたし}たちは、神様^{かみさま}からはなれては生^うきていくことができないのです。これ^{わたし} (私^{わたし}たちの考^{かんが}えは正^{ただ}しくなく神様^{かみさま}からはなれて生^うきることができないこと) はすべてのことに共^{きようつう}通^{つう}します。だから、私^{わたし}たちは自分^{じぶん}の思^{おも}いでなく、神様^{かみさま}がどのよう^{かんが}に考^{かんが}えておられるかを大^{たい}切^{せつ}にしないといけません。この姿^{すがた}をガイドは「謙遜^{けんそん}」といっています。

「謙遜^{けんそん}」であれば、私^{わたし}たちは自分^{じぶん}の思^{おも}いで世^よの中^{なか}を見^みることはありません。自分^{じぶん}の思^{おも}いではなく、神様^{かみさま}がどのよう^{かんが}に考^{かんが}えておられるのかを知^しりたいと思^{おも}います。この思^{おも}いが私^{わたし}たちを神様^{かみさま}のほうへ成^{せい}長^{ちやう}させるのです。

成^{せい}長^{ちやう}すればするほど、これまでわからなかつたことがわかるようになり、神様^{かみさま}のすがたもわかるようになるのです。神様^{かみさま}は「謙遜^{けんそん}な者^{もの}には恵^{めぐ}みをお与^よねになる」(ヤコブ 4:6) のです。

5. 水曜日：決意^{けつい}と忍耐^{にんたい}

皆^{みな}さんはコツコツやるタイプですか。ガラテヤ 6: 9 には「たゆまず善^{ぜん}を行^{おこな}いましょう。飽^あきずに励^{はげ}んでいれば、時^{とき}が来^きて、実^みを刈^とり取ることになります。」とあります。私^{わたし}は「たゆまず」「飽^あきずに」というのが苦^{にが}手^てです。すぐ結^{けつ}果^かを求^{もと}めてしまします。教^{きやう}会^{かい}活^{かつ}動^{どう}、特^{とく}に伝^{でん}道^{どう}をしてい^{とき}る時に、すぐ^{けつ}に結^{けつ}果^かがで^でてくるものはそう多^{おほ}くはありま

せん。むしろ結果がすぐには出てこないものです。そこであきらめてしまえば、福音を広げることにはできません。私たちはそれを経験しています。しかし、福音の種をまきつづければ、かならず実りの季節がやって来るものです。これは信仰生活にも言えることです。あなたの信仰の成長もそうですし、聖書の中でわからないところが出てきた時も同じです。それに取り組んでいる時間はむだにはなりません。それはふくらんで大きな祝福となってあなたにもどってくるのです。もし、すべてがわからなかったとしても、わかったところを信仰生活で実行していけば、新たな真理（イエス・キリスト）へ導かれることもあるのです。

日曜日のところで聖書の真理（イエス・キリスト）はパズルのようなものだと言いました。パズルを完成させるために必要なものは何でしょうか。やっているうちゅうで投げ出さないこと。そして、本当にピースがはまるかどうか何度もやってみることで。はまらなかつたら、次のピースをためていけばいいのです。ただ、考えていても完成しないのです。

6. 木曜日：難しい箇所を聖書的に祈りつつ扱う

最後にイエス様の弟子たちの方法を見ていきましょう。使徒言行録にベレアの人たちが出てきます。「このユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。」（使徒 1 7: 1 1）彼らは伝えられた真理（イエス・キリスト）を素直に受け入れました。でもただ信じたのではありませんでした。それ（聖書の聖句）が真理（イエス・キリスト）かどうか、毎日聖書を調べていたのです。聖書全体を見たり、同じ主題に対して聖書はなんと言っているか、もっと他に聖書は語っていないか、こんな思いで毎日聖書研究をしていたのです。聖書を使って聖書を調べることは、私たちの信仰の先輩のしたことであり、このことから私たちの教会が生まれたのです。むずかしい箇所がでてきたらこの姿に戻りましょう。

そしてなによりも、神様に祈っていきましょう。祈ることで、今週学んだいくつものことが実行できるからです。神様の助けをいただき、自分ではなく神様中心に聖書にむきあうことができます。その時、神様から必要な真理（イエス・キリスト）がいただけるのです。

7. 金曜日：さらなる研究

今週のガイドを学ぶとイザヤ書を思い出しました。「主の手が短くて救えないのではない。主の耳が鈍くて聞こえないのでもない。」（イザヤ 5 9 : 1）難しい聖句に出会った時、私たちはそれ（難しい聖句）は相手に問題があると思います。しかし、多くは私のほうに問題があるのです。その問題を一つ一つ取り除くことができれば、真理（イエス・キリスト）、神様の本当の姿を見ることができるのです。逆に、批判（相手を間違っていると強く言うこと）をすればするほど真理（イエス・キリスト）からはなれていってしまうことに私たちは気が付かなくてはいけません。